

広報ふくろいをめぐる あんな話こんな話

まちの情報ボックス、広報紙。
自治体によって特色があり、おもしろいですね。
「広報ふくろい」に関わる話題を集めてみました。

あなたは読んでいますか？
「広報ふくろい」

平成17年、新袋井市のスタートと同時に新しい広報ふくろいが創刊し、この3月1日号で144号になりました。現在、広報ふくろいは毎月1回発行で、15日号はお知らせ号となっています。

平成24年度市民意識調査(市内在住の20歳以上3千人対象、回収率51.5%)の結果報告書によれば、「あなたは広報ふくろいを読みますか?」という問いに対して「必ず読む」の回答は55.1%と最も高い割合でした。市のホームページを見る人やメールねつこを利用する人の割合は増えているものの、市の情報を収集する方法として、広報紙の手軽さはいまだ根強い人気があるようです。

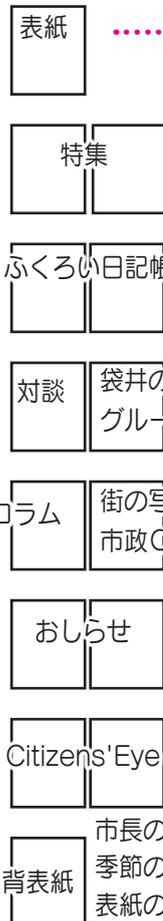
「つながり」を築く広報紙に

広報ふくろいは、秘書広報課の担当職員2人と市民編集員2人が中心になって作られています。

市役所各課の広報主任は、市民からの声や情報を活かしながら、広報紙を利用して市民に伝えたい内容を、特集やコラム掲載の要望として秘書広報課へ提出。広報に掲載されることで、市の政策を知ったり、講座や催しに参加したりするきっかけづくりになります。

今後、紙面に市民の声がますます反映され、広報ふくろいをきっかけに、市民と行政、さらには市民と市民が、もっとつながっていくことを期待したいですね。

1日号の紙面構成(平成24年度)



ココに注目!

表紙は広報を手にする大きなきっかけ!

表紙の写真は、人物主体の写真が多いです。背表紙には「表紙のことば」が載っています。

ココに注目!

ふくろい日記帳、袋井の人は、袋井の旬の話題満載です。

市内の出来事や市内で活躍する人を紹介。広報職員が、カメラ片手に市内を駆けめぐり、取材しています。

ココに注目!

市民が参加できるページがあります。

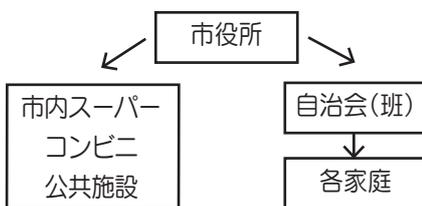
グループ紹介、街の写真館は、市民参加型のコーナーです。市民の皆さんの投稿がページを作ります。Citizens'Eyeは、市民編集員が担当しています。また、市政Q&Aは市民からのご意見ご質問をもとに作成しています。

Q

広報ふくろいは、どのように配布されますか?

A

市役所から自治会へ発送し、自治会のご協力でそれぞれの家庭へ配布されています。市内スーパー、コンビニ、公共施設にも置いてあります。



Q

広報ふくろいのバックナンバーを見たい時は?

A

市のホームページでご覧いただけます。市役所2階の「情報公開コーナー」でも自由に閲覧できます。市内各図書館でも閲覧可能です。(月見の里学遊館図書館分室は3年間保存です)

足あとをたどって...



平成24年度の「市民編集員がお伝えします Citizens'Eye」で
取り上げた事柄のその後を追いました。

8月1日号
に掲載

野菜いっぱい運動

8月1日号の「食べて健康 野菜
いっぱい生活」に掲載。担当の管理
栄養士・塚本ゆみ江さんのお話。



☆ミニクイズ

広報ふくろい1日号の1か月の発行部数はおよそ何部でしょう？

①8万7千部

②2万部

③3万部 答えは18ページ

平成22年度の市民意識調査において、「野菜いっぱいマークの認知度」を調査したところ、「知らない」という方が75.1%という結果でした。また健康づくり食生活推進協議会の会員数も伸び悩んでおり、広報への掲載を依頼しました。その結果、野菜いっぱいマーク表示店は、平成24年7月末は39店舗でしたが、12月末には56店舗と17店舗も増え、10月から開催した食生活推進員育成セミナーを修了した15人が、食推協に加入してくれることになりました。

9月1日号
に掲載

女性消防隊に入りました!

広報ふくろいで
知り合いが掲載されていて、
その方と連絡をとったのがきっかけで、
女性消防団員になりました。人との交流
や新鮮な体験ができますよ。
一緒に活動しませんか?



わたなべ 渡邊美千代さん、藤原きよみさん

市民のつぶやき

今年度の広報広聴モニターで活躍中のお2人に聞きました。



成瀬弘美さん

救急当番医や行事は必ず読みます。それらが1枚になっていたら、掲示して見られるのでいいと思いますね。親子で行けるイベントによく行っています。



特集や催し、「市長の散歩道」をよく読みます。現在、ブラジルの方に日本語を教えているので、広報のポルトガル語版が充実するといいですね。



萩田桂子さん

市民編集員からのアンケートでは、ほかにもこんな声がありました。

「子どもの遊び場、子育てに関するコラムなどがあたらうれしい」、「近隣市町と協力して行うボランティア情報を載せてほしい」、「市内の社長・校長・自治会長さんのつぶやきを聞いてみたい」、「元気なおじいちゃん・おばあちゃんからの人生訓」など。

市民編集員のひとこと



1月1日号で紹介の「おはたき」について、読者の方からお電話をいただきました。うれしいね!

こせきゆうこ たにぐちふみえ
小関裕子、谷口史恵

照姫椿という椿がありました。
医王山薬王院油山寺の薬師堂の前に
京の中納言藤原宗茂の娘、照姫は、
目の治療のため油山寺にお参りして、
目が見えるようになりました。その後、
姫は尼さんになりますが、病弱のため若くして亡くなりました。
妹の露姫は、姉が亡くなっていることを知り、哀しみにくれました。すると夢の中に照姫が現れ「命が絶えても、目が見えるようになった恩返しに私の魂を椿に託します」と告げました。露姫が夢から覚めて薬師堂へ行ってみると、椿の花びらがちらちらと散っていました。これが照姫椿です。
現在ある照姫椿は2代目ですが、3月になるときれいな花が咲くそうです。

ちよこつと民話
～袋井東地区編～
（「袋井に伝わる昔話」より）

